

金光大神が、

「死ぬことはどういうものでありましようか」

と神におたずねしたところ、

「死ぬのは寝入っているのと同様である。死ぬことをいとうな」と仰せられた。

……「天地は語る」第六十六条……

解説

人生の最大の疑問であります「死」への問いに対して、金光大神様は「死ぬのは寝入っているのと同じである」と言われ、又、ある時には「死ぬというのは魂と体が分かれることである」又、「死んだ者の魂は、天地の間に飛ぶように遊んでいるのである」とも仰せられています。大半の科学者は「死とは、心身の完全な消滅である」との見解ですが、金光大神様は「体はもとの地に帰るが魂は授けてくださった天に帰る」と仰せられています。

即ち、私達人間は、この大宇宙の働きを司る天地の親神様の御蔭の中でこの世に生を受け、そして生死を通してお世話になり続ける存在であることを明示されているのであります。